

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地				
麻生建築&デザイン専門学校		平成9年11月26日		竹口 伸一郎		〒 812-0016 (住所) 福岡県福岡市博多区博多駅南1-11-13 (電話) 092-415-2292				
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地				
学校法人麻生塾		昭和26年3月12日		理事長 麻生 健		〒 820-0018 (住所) 福岡県飯塚市芳雄町3-83 (電話) 0948-25-5999				
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度				
工業	工業専門課程	建築工学科		平成12(2000)年度	—	平成25(2013)年度				
学科の目的	卒業後、1級建築士、2級建築士を目指し、住宅・店舗・オフィス・ホテル・公共施設などの各種建築物の計画、設計、法規、構造、インテリア及び施工のプロセスなどの専門知識を学び、さらにCADなどパソコン活用技術を体得することを主な目的とする。									
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	取得可能な検定:1級建築士受験資格(卒業時)、2級建築施工管理技術検定(第一次検定)、宅地建物取引士、建築CAD検定、福祉環境コーディネーター 進路変更、健康上の問題により、中退率3.6%となっている。									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数			講義	演習	実習	実験	実技	
3年	昼	※単位時間、単位いずれかに記入			— 単位時間	— 単位時間	— 単位時間	— 単位時間	— 単位時間	
		90 単位			90 単位	144 単位	18 単位	0 単位	0 単位	
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)						
360人	314人	6人		2%						
就職等の状況	■卒業者数(C)		115人							
	■就職希望者数(D)		40人							
	■就職者数(E)		40人							
	■地元就職者数(F)		16人							
	■就職率(E/D)		100%							
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		40%							
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		35%							
	■進学者数		71人							
	■その他									
	・アルバイト 1名 ・就職斡旋希望せず 3名 担任と就職担当が連携し、面接指導、履歴書指導、求人票説明・指導等を学内で実施。 (令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)									
■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) 株式会社一条工務店(施工管理職) 建設業										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載				無					
	評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL					
当該学科のホームページURL	https://asojuku.ac.jp/aadc/archie/									
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)									
	総授業時数		— 単位時間							
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		— 単位時間							
	うち企業等と連携した演習の授業時数		— 単位時間							
	うち必修授業時数		— 単位時間							
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		— 単位時間							
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		— 単位時間							
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		— 単位時間							
	(B:単位数による算定)									
	総授業時数		252 単位							
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		0 単位								
うち企業等と連携した演習の授業時数		4 単位								
うち必修授業時数		52 単位								
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位								
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		4 単位								
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位								
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				3人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				5人					
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0人					
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				0人					
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				1人					
	計				9人					
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				9人						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について、意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的として、教育課程編成委員会を設置し、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。
 また、広く建築業界の動向や求められる知識レベルを把握するためおアンケートを実施し、現場の求めるニーズを確実に捉え、本校の授業内容やカリキュラムに反映する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
 ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
 教育課程編成委員会は、専門性に関する動向や方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とする。委員会は、次の事項を審議し、会議の結果を学科内でのカリキュラム会議に報告する。
 ①カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
 ②各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
 ③教科書・教材の選定に関する事項
 ④その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項
 また、カリキュラム会議においては教育課程委員会からの意見を参考に、学科の教育方針に則ったカリキュラムを検討し、策定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
太田 昌宏	愛知産業大学 教授	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	②
宮本 清美	株式会社エイジェック 課員	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	③
照井 善明	特定非営利活動法人 FUKUOKAデザインリーグ 専務理事	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	①
今泉 清太	麻生建築&デザイン専門学校 校長代行	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	—
津嘉山 佳子	麻生建築&デザイン専門学校 主任	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	—
古賀 俊光	麻生建築&デザイン専門学校 副主任	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	—
福光 春子	麻生建築&デザイン専門学校 副主任	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	—
森行 美枝	麻生建築&デザイン専門学校 教員	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	—
西尾 英士	麻生建築&デザイン専門学校 教員	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	—
清水 道敏	麻生建築&デザイン専門学校 教員	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	—
佐藤 桃子	麻生建築&デザイン専門学校 教員	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	—
石本 洋士	麻生建築&デザイン専門学校 教員	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	—
松川 渚	麻生建築&デザイン専門学校 教員	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	—
宗吉 隼一	麻生建築&デザイン専門学校 教員	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
 (当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (7月、12月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年7月1日 15:40~17:00

第2回 令和4年12月9日 15:40~17:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員より、単位制カリキュラムの導入にあたり、履修科目の個人差や偏りを可能な限り少なくすることが望ましいとの意見をいただいたため、指定科目を優先的に受講させ、かつ再履修が比較的容易となるように編成した。さらに、個人の方向性にあつた専門的な学習を提供するための取り組みも継続している。また、建築現場では密にコミュニケーションを取る必要性が非常に高く、必然的にコミュニケーションを構築できる人材が求められているとの意見も寄せられたため、建築工学科の授業においてはコミュニケーションを取らざるをえないグループワークを多く組み込み、コミュニケーションを取る機会の創出を図った。さらに、近年業界企業の間でBIMソフト導入のニーズが高まっているが、地方では投資できる企業もまだ少なく、就職時のミスマッチを防ぐため職業理解を深めてほしいとの意見もいただいた。BIMソフトの操作技術の向上も図りつつ、並行して模型作りによる建築構造の学習にも取り組み、設計の組み立てができる力も継続して育成していく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等とのヒアリングに基づき、各種建築物の計画、設計、法規、構造の及び施工のプロセスなど、建築工学の専門知識を幅広く学び、CAD操作・手描き演習を通して必要な技術や創造力、発想力を養うことにより、プレゼンテーション能力の向上と、実務適応能力の育成を目的とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

建築図学Ⅰ・Ⅱにおいて、立体・空間の作図の演習を通して空間把握能力を養う。企業実務担当者による実務案件をモデルケースとし、活用頻度の多い場面を想定した課題選定の提案や指示・助言による課題設定を行う。また、習得スキルを各段階毎(基礎/応用)に設定し、パース作図の描画手法の学習段階を設計・評価していただいている。企業担当者が業務の要点をまとめたもの(オリジナルテキスト)を教材とし演習をすすめる。授業課題の評価は企業担当者を中心とし、本校教員も含めて総合的に行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
建築図学Ⅰ	テキストを熟読し、建築を表現する各図法について知識を広く得る。	石原パースデザイン
建築図学Ⅱ	自分の意図した空間・形態を的確に表現する。図法を実際の建築物を参照しながら習得する。	石原パースデザイン

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

「教職員研修規程」に基づき計画的に教員を研修に参加させる。研修は、教職員に対して、現在就いている職又は将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的とする。

教職員に対し、専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を、教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、受講者はその内容を他教員へ展開することで、全教員のより高度な職務を遂行するために必要な知識を付与することを目的とする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	建築基本法を知る／良質な建築、美しいまちづくりのための理念	連携企業等: 一般社団法人 日本建築まちづくり適正支援機構
期間:	令和4年 12月3日	対象: 専任教員
内容:	建築基準法から建築基本法へ。新法の動きがあるなか、本当に社会が求めている建築とその理念についての研修。	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	ブレンディッドラーニング	連携企業等: デジタルハリウッド株式会社
期間:	令和4年8月23日	対象: 専任教員
内容:	ICTを活用した教員の新たな役割、学修者本位の教育の仕組みについて学ぶ。	

(3) 研修等の計画	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: 学校建築にこれからの教育は担えるか	連携企業等: 一般社団法人日本建築学会
期間: 令和5年10月11日	対象: 専任教員
内容 建築は多様性や自主性を身につけるような教育にどのように関与できるか。	
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 授業におけるファシリテーション(対面授業編)	連携企業等: 株式会社ONDO
期間: 令和5年8月24日	対象: 専任教員
内容 学生の意見とやる気を出すための授業の進め方。意見を引き出しまとめる為に必要な情報の提供、発言しやすい環境の作り方(板書のコツやワークのやり方など)。	
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
(1) 学校関係者評価の基本方針	
実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換を通じて、自己評価の結果を評価しHP等を通して公表する。また、学校関係者評価委員会は、本校の関係者として、保護者・卒業生・地域住民・企業関係者・高等学校関係者・教育に関する有識者で構成する。	
(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、人事・給与規程、業務効率化、他
(3) 教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、実践的な職業教育、教職員の資質向上、他
(4) 学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、就職率、退学率、他
(5) 学生支援	修学支援、生活支援、進路支援、卒業生への支援、他
(6) 教育環境	教育設備・教員の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7) 学生の受入れ募集	APの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試
(8) 財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9) 法令等の遵守	専修学校設置基準の遵守、学内諸規程の整備・運用、自己点検・評価、他
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献、地域貢献、学生のボランティア活動の推奨、他
(11) 国際交流	留学生の受入れ、支援体制
※(10)及び(11)については任意記載。	
(3) 学校関係者評価結果の活用状況	
委員から学生数増加と多様性への対応として、教育の質の向上と単位制カリキュラムの編成・履修、業界が求める人材ニーズについて意見をいただいた。	
教育の質の向上については、新任教員を対象に担当教員による定期的な研修(学生指導やクラス運営など)を実施し、幅広い業務知識を備えておくことで、ゆとりをもって業務遂できるよう注力した。引き続き学内外の研修へ積極的に参加を促しており今後も幅広く研修を実施していく。	
また、単位制カリキュラムについても、学生の個々に合わせた学習環境と再履修の機会を提供できるよう編成し、シラバスの改善を図った。特に建築工学科では建築士受験資格の取得だけでなく、建築設計技術等の演習授業も重要であるため、受験要件である指定科目の履修と併せ、実務に直結した能力の修得・向上にも配慮したカリキュラムを編成した。今後は適宜、カリキュラムの見直しと、履修を体系的に配置できているかの再確認を進めていく。	
また、業界が求める人材ニーズについても言及があり、新しい知識や技術に関心を持ちチャレンジできる人材、リーダーシップを発揮できる人材ニーズが高いため、コンペティション等の外部イベントへの参加を通して、建築工学技術のスキルアップと同時に人材育成にも繋げていく。	

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
中村 直子	建築工学科 在校生 保護者	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	保護者等
伊藤 宏次郎	建築工学科 卒業生	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	卒業生
市川 仁士	福岡県立 福岡工業高等学校 校長	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	高等学校関係者
小林 芳光	博多区博多駅南第4区自治会 民生委員	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	地域住民
元木 昭平	ウムデザインオフィス 代表	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	有識者
井上 勝義	クリエイティブ・ルーム ERNEST 代表	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	有識者
太田 昌宏	愛知産業大学 教授	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	有識者
宮本 清美	株式会社 エイジック 課員	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
和田 義一	株式会社 大設計 代表取締役	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
田邊 聡	JAPANO合同会社 代表社員	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
中野 貴嗣	株式会社九州三田技術コンサルタンツ センター長	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
高木 秀樹	株式会社住まいえ 代表取締役	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
福田 哲也	合同会社if architects 代表社員	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
板橋 正志	株式会社ダイキエンジニアリング 取締役 人事本部長	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
松田 淳司	株式会社ゼネラルアサヒ コミュニケーションデ ザイン本部 本社制作部長	令和5年4月1日 ～令和7年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/aadc/2023/hyoka.pdf>

公表時期: 令和5年9月29日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等との連携及び協力により、実践的な職業教育の質の向上を推進するため、教育活動及び学校運営の状況について情報を提供する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	歴史、教育理念、教育目標、ASOの考え方
(2) 各学科等の教育	入学者受入れ方針、教育課程編成・実施方針、カリキュラム、国家資格・検定、就職情報
(3) 教職員	教員一覧及び実務家教員科目
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート、GCB教育、企業連携
(5) 様々な教育活動・教育環境	学園祭、部活動・サークル活動、学外ボランティア
(6) 学生の生活支援	生活環境サポート、学生寮、就職サポート、留学生サポート
(7) 学生納付金・修学支援	学費とサポート、学習支援(各種支援制度)
(8) 学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書
(9) 学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	留学生入学案内、留学生募集分野、グローバル教育
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://asojuku.ac.jp/aadc/>

公表時期: 令和5年7月31日

授業科目等の概要

(工業専門課程 建築工学科) 令和5年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		建築設計製図Ⅰ	設計製図の基本(線・文字の基本的な描き方と建具等の表示記号の理解)である木造建物、鉄筋コンクリート造の製図法を習得する。	1前	60	4		○		○	○			
2	○		建築設計製図Ⅱ	小規模住宅設計を課題として建築計画と設計製図の基礎を習得する。	1後	60	4		○		○	○			
3	○		建築設計製図Ⅲ	店舗併用住宅を設計することで、企画・計画・設計の段階、建築物が完成するまでの過程を学習する。	2前	60	4		○		○	○			
4	○		建築設計製図Ⅳ	特殊建築物(共同住宅など)を課題として、実際の敷地を見学し、事例収集などを含めた調査から地域に相応しい建築計画・建築設計のプロセスを学ぶ。	2後	60	4		○		○	○			
5	○		建築計画Ⅰ	主に建築計画の基本となる住宅について学ぶ。また建築を設計するうえで基本となるスケール感覚を身につけ、人間が生活する空間を学ぶ。	1前	30	2	○			○	○			
6	○		建築計画Ⅱ	公共建築のうち教育施設(幼稚園、小中学校等)や外部空間、自然環境と建築の関係等を学ぶ。	1前	30	2	○			○	○			
7	○		建築計画Ⅲ	建築として主に公共建築について学ぶ。特に図書館、美術館、コミュニティセンター等の社会教育施設や、少子高齢化社会に向けて医療施設、福祉施設について学ぶ。	1後	30	2	○			○	○			
8	○		建築計画Ⅳ	建築として主に商業施設の計画について学ぶ。特に事務所ビル、劇場・音楽ホール、百貨店・スーパーマーケット、駐車場等について学ぶ。	1後	30	2	○			○	○			
9		○	建築計画Ⅴ	主に都市デザイン、まちづくり、都市計画制度、都市・都市計画史について学ぶ。	2後	30	2	○			○	○			
10	○		建築環境工学	建築環境工学の基礎的な知識として熱、光、空気、音の分野について学習する。	1前	30	2	○			○	○			
11	○		建築設備	各種建物の特徴と建築設備の関わり、空調、給排水、衛生、電気等の各種建築設備における基本的な事項と考え方について学習する。	1後	30	2	○			○	○			
12	○		建築構造力学Ⅰ	建築力学の基礎概念である「力のモーメント」「力のつり合いなどの静力学の基礎」「静定構造物の反力・応力の求め方」「トラス構造の解析方法」について学ぶ。	1前	30	2	○			○	○			
13	○		建築構造力学Ⅱ	「静定構造物の応力の求め方」「トラス構造の解析方法」について学ぶ。	1後	30	2	○			○	○			
14		○	建築構造力学Ⅲ	不静定構造を対象として、応力度・ひずみ度の算定、材料の性質、許容応力度設計の考え方、断面の性質などについて学び、不静定梁のたわみと断面力算定、たわみ角法および固定法による不静定骨組の断面力算定法などについて学ぶ。	2前	30	2	○			○	○			

(工業専門課程 建築工学科) 令和5年度

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
15	○			建築一般構造Ⅰ	木造建築物の構造について、必要な部材名及びその役割を理解し基礎知識を身につける。	1前	30	2	○			○	○			
16	○			建築一般構造Ⅱ	鉄筋コンクリート構造の基本的な構造を理解し、その構造形式の特徴について学ぶ。鉄骨構造の構造形式などの特徴や部材の設計方法について学ぶ。	1後	30	2	○			○	○			
17	○			建築材料Ⅰ	建築材料のうち、構造材料である木材料、コンクリート材料の性質について学ぶ。	1前	30	2	○			○	○			
18		○		建築材料Ⅱ	建築材料のうち、構造材料であるコンクリート材料、金属材料(鋼材)の性質について学ぶ。	2前	30	2	○			○	○			
19	○			建築施工Ⅰ	請負契約から工事計画・工事管理までを学習する。また、各種工事についての知識を習得する。	1前	30	2	○			○	○			
20	○			建築施工Ⅱ	鉄骨造、各種仕上げ工事などに関する要点を習得する。	1後	30	2	○			○	○			
21		○		建築施工Ⅲ	建築物の設計図面や仕様書等の設計図書をもとに建築物の各部材の材料とその数量を求める。各材料の単価を把握し建築物の建築工事費の算出方法を学ぶ。	2後	30	2	○			○	○			
22	○			建築法規Ⅰ	基本となる建築基準法を中心に学習し建築物の設計等を行う際の最低限の基準、主に単体規定を学習する。	1前	30	2	○			○			○	
23	○			建築法規Ⅱ	都市計画の観点から建築物について学ぶ。主に集団規定を学習する。	1後	30	2	○			○			○	
24	○			建築法規Ⅲ	各部の高さや防火規定など、各規制や緩和を知り、より応用力を身につける。更に卒業研究でのデザインに応用できるよう学習する。	2後	30	2	○			○			○	
25		○		福祉住環境	高齢化社会に対応できる福祉住環境コーディネーターの知識を習得する。	1前	30	2	○			○			○	
26		○		インテリアコーディネーション	住宅内装計画の設計・プレゼンテーション技法を学ぶ。	2前	30	2	○			○			○	
27		○		インテリア設計	プランニング力を付け、平面図、展開図、家具の3面図を描く。	2後	60	4	○			○			○	
28	○			建築図学Ⅰ	テキストを熟読し、建築を表現する各図法について知識を広く得る。	1前	30	2	○			○			○	○
29	○			建築図学Ⅱ	自分の意図した空間・形態を的確に表現する。図法を実際の建築物を参照しながら習得する。	1後	30	2	○			○			○	○

(工業専門課程 建築工学科) 令和5年度

分類	授業科目名			授業科目概要			授業方法			場所		教員		企業等との連携	
							講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
															配当年次・学期
必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	企業等との連携
	○		造形学Ⅰ	建築の構成要素を考えながら、模型等の製作等において美しい形態を造形する。	1前	30	2		○		○		○		
	○		造形学Ⅱ	建築の構成要素を考えながら、模型等の製作等において美しい形態を造形する。	1後	30	2		○		○		○		
	○		設計制作Ⅰ	グループでの設計の進め方を学びながら、集合設計課題として、実際の敷地調査・事例収集などを設定地に相応しい建築計画・建築設計を行うためのプロセスを学ぶ。	2前	60	4		○		○		○		
	○		設計制作Ⅱ	前期の制作を継続し、グループでの設計のブラッシュアップを行い、より伝わるプレゼンテーション力のある作品作りを行う。	2後	60	4		○		○		○		
	○		CAD演習Ⅰ	建築設計の基本的な考え方について学ぶ。JW-CADの基本操作・各種設定・作図技術・印刷方法の習得。	1前	30	2		○		○		○		
	○		CAD演習Ⅱ	CAD演習Ⅰの基礎的な知識をベースに木造住宅の設計演習を実施し、建築CAD検定2級合格を目指す。	1後	60	4		○		○		○		
	○		CAD演習Ⅲ	AutoCADの基本操作・各種設定・作図技術・印刷方法の習得。	2前	60	4		○		○		○		
	○		CAD演習Ⅳ	CAD演習Ⅲの基本操作から応用操作をマスターし、RC造など大型建築物を短時間で作図できる能力を養う。	2後	30	2		○		○		○		
	○		BIM演習Ⅰ	建築設計や建築生産に必要な3次元図面の作成技術を習得する。	2前	60	4		○		○		○		
	○		BIM演習Ⅱ	BIM演習Ⅰの基礎知識をベースに、建築設計や建築生産に必要な3次元図面の作成技術を通して、多角的な設計技術を学ぶ。	2後	60	4		○		○		○		
	○		BIM演習Ⅲ	BIM演習Ⅰ・Ⅱの基礎技術をベースに、チームでデータを共有しながら作業を進め、より高度な設計技術を学ぶ。	3前	60	4		○		○		○		
	○		BIM演習Ⅳ	より高度なモデリング手法を学び、作成したモデルからデータを抽出し、データ解析する手法を学ぶ。	3後	60	4		○		○		○		
	○		CG演習Ⅰ	IllustratorとPhotoshopの基本操作を習得しPhotoshop、Illustratorを使用して作品を製作する。	2前	30	2		○		○		○		
	○		CG演習Ⅱ	IllustratorとPhotoshopの応用操作を習得しPhotoshop、Illustratorを使用して作品を製作する。	2後	30	2		○		○		○		
	○		CG演習Ⅲ	CG演習Ⅰ・Ⅱで習得した基本技術を駆使し、オリジナルプランを表現する応用技術の習得を目指す。	3前	30	2		○		○		○		

(工業専門課程 建築工学科) 令和5年度

分類	授業科目名		授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
	必修	選択必修					自由選択	講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任		兼任
45	○	設計専攻ゼミ(住宅/都市)	設計コース(住宅空間・都市空間)でゼミ形式授業実施。前期は、作品制作するための調査を中心として活動する。	3前	120	8	○			○		○			
46	○	施工専攻ゼミ(施工管理)	施工管理コースでゼミ形式授業実施。前期は、測量、木造模型、コンクリート強度試験等を実施する。	3前	120	8	○			○		○			
47	○	卒業制作(設計)	前期 設計コース(住宅空間・都市空間)の授業を踏まえて、卒業制作の作品を完成させ、更にプレゼン能力を養う。	3後	180	6			○	○		○			
48	○	卒業制作(施工)	前期、施工管理コースの授業を踏まえ、構造模型を完成させ、更にプレゼン能力を養う。	3後	180	6			○	○		○			
49	○	建築士対策(製図Ⅰ)	二級建築士の設計製図課題レベルのエスキース・製図能力の習得。設計作業のプロセスを踏まえた制作工程を理解する。	3前	60	4	○			○		○			
50	○	建築士対策(製図Ⅱ)	二級建築士の設計製図課題レベルのエスキース・製図能力の習得。設計作業のプロセスを踏まえた制作工程を理解する。	3後	60	4	○			○		○			
51	○	建築士対策(計画Ⅰ)	二級建築士の学科試験の学科Ⅰ(計画)を学ぶ。	3前	30	2	○			○		○			
52	○	建築士対策(計画Ⅱ)	二級建築士の学科試験の学科Ⅰ(計画)を学ぶ。	3後	30	2	○			○		○			
53	○	建築士対策(法規Ⅰ)	二級建築士の学科試験の学科Ⅱ(法規)を学ぶ。	3前	30	2	○			○		○			
54	○	建築士対策(法規Ⅱ)	二級建築士の学科試験の学科Ⅱ(法規)を学ぶ。	3後	30	2	○			○		○			
55	○	建築士対策(構造Ⅰ)	二級建築士の学科試験の学科Ⅲ(構造)を学ぶ。	3前	30	2	○			○		○			
56	○	建築士対策(構造Ⅱ)	二級建築士の学科試験の学科Ⅲ(構造)を学ぶ。	3後	30	2	○			○		○			
57	○	建築士対策(施工Ⅰ)	二級建築士の学科試験の学科Ⅳ(施工)を学ぶ。	3前	30	2	○			○		○			
58	○	建築士対策(施工Ⅱ)	二級建築士の学科試験の学科Ⅳ(施工)を学ぶ。	3後	30	2	○			○		○			
59	○	ビジネスマナーⅠ	ビジネスに必要な基本的な知識の習得を目指す。(立ち居振る舞い・敬語・ビジネス文書)	2前	30	2	○			○		○			

(工業専門課程 建築工学科) 令和5年度

分類	授業科目名		授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
	必修	選択必修					自由選択	講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任		兼任
60	○	ビジネスマナーⅡ	ビジネスに必要な基本的な知識の習得を目指す。(交際業務・来客対応・電話対応)	2後	30	2	○			○	○				
61	○	GCBⅠ	グローバルシティズンの育成をめざし、感謝心と思いやりをもった人材を養成する。	1前	15	1	○			○	○				
62	○	GCBⅡ	グローバルシティズンの育成をめざし、ビジョンと志をもった人材を養成する。	1後	15	1	○			○	○				
63	○	就職実務Ⅰ	組織の中で働く基礎であるコミュニケーションに関する基本的な理解と実践に必要な知識を習得し、社会生活における円滑なコミュニケーションの基礎を学ぶ。	1前	15	1	○			○	○				
64	○	就職実務Ⅱ	Ⅰでの授業を基に、相手を理解し聞く伝えるを適切にできるコミュニケーションの演習を行う。また、状況に応じた敬語のケーススタディについて学ぶ。	1後	15	1	○			○	○				
65	○	就職実務Ⅲ	多様な働き方や求められる人材について理解し、働くことについて考える。社会で求められる人材像について理解しながら就職活動の基礎知識を学ぶ。	2前	30	2	○			○	○				
66	○	就職実務Ⅳ	業界の研究、職業理解を深め、自己分析を進める。テキストに沿って就職活動の準備を進め、履歴書等の就活ツールの作成する。	2後	30	2	○			○	○				
67	○	就職実務Ⅴ	就職試験対策としての具体的な活動準備を行う。自己PRの整理、履歴書・作品集等の整備、就活マナーなど各々個別の準備を行う。	3前	30	1				○	○	○			
68	○	就職実務Ⅵ	入社した後も困らない社会人になる上でのスキルを身につける。社会人として必要なビジネスマナーについて復習する。	3後	30	1				○	○	○			
69	○	検定対策ゼミⅠ	各種検定対策授業の実施。	2前	60	4	○			○	○				
70	○	検定対策ゼミⅡ	各種検定対策授業の実施。前期で受講した検定ゼミを継続して受講する。(選択)	2後	30	2	○			○	○				
71	○	設計競技ゼミⅠ	設計競技への出展を目標とし、設計手法の習得を目指す。課題文の読み込み・分析、コンセプト設定、エスキースを学んでいく。	1後	60	2				○	○	○			
72	○	設計競技ゼミⅡ	設計競技への出展を目標とし、表現手法の習得を目指す。図面作成およびプレゼンボードの作成を学んでいく。	2後	60	2				○	○	○			
73	○	BIM専攻ⅠA	ビルディングインフォメーションモデリング(BIM)についての理解と関係ソフトの基礎知識及び操作技術の向上。	1前	15	1	○			○	○				
74	○	BIM専攻ⅠB	BIM手法を駆使し、作品制作や競技設計へ挑戦することで、技術の向上を図る。	1後	15	1	○			○	○				

(工業専門課程 建築工学科) 令和5年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択													
75	○		BIM専攻ⅡA	BIMについての理解と関係ソフトの基礎的知識及び操作技術の向上を図る。	2前	15	1	○			○	○			
76	○		BIM専攻ⅡB	BIM手法を駆使し、作品制作や競技設計へ挑戦することで技術の向上を図る。	2後	15	1	○			○	○			
77	○		BIM専攻ⅢA	BIMについての理解と関係ソフトの基礎知識及び操作技術の向上を図る。	3前	15	1	○			○	○			
78	○		BIM専攻ⅢB	BIM手法を駆使し、作品制作や競技設計へ挑戦することで技術の向上を図る。	3後	15	1	○			○	○			
79		○	数学ゼミ A	専門教科で必要とされる力学を理解できるように四則演算及び分数計算・小数の計算を振り返りを行う。	1前	15	1	○			○	○			
80		○	数学ゼミ B	専門教科で必要とされる力学を理解できるようにSI単位の理解を行い、単位の計算ができるよう学習する。	1後	15	1	○			○	○			
81	○		二級建築士試験学科Ⅰ(建築計画)	2級建築士学科試験、学科Ⅰで出題される各項目について理解し、出題が想定される問題の正答が導き出せる力を養う。	2前	60	4	○			○	○			
82	○		二級建築士試験学科Ⅱ(建築法規)	2級建築士学科試験、学科Ⅱで出題される各項目について理解し、出題が想定される問題の正答が導き出せる力を養う。	2前	60	4	○			○	○			
83	○		二級建築士試験学科Ⅲ(建築構造)	2級建築士学科試験、学科Ⅲで出題される各項目について理解し、出題が想定される問題の正答が導き出せる力を養う。	2前	60	4	○			○	○			
84	○		二級建築士試験学科Ⅳ(建築施工)	2級建築士学科試験、学科Ⅳで出題される各項目について理解し、出題が想定される問題に正答が導き出せる力を養う。	2前	60	4	○			○	○			
85	○		二級建築士試験 学科総合対策	2級建築士「学科試験」出題範囲、計画・法規・構造・施工の総合演習問題に取り組み、正解できる力をつける。	2前	150	10	○			○	○			
86	○		二級建築士試験 製図総合対策	2級建築士「製図試験」の模擬問題へ取り組む。適切なエスキス、規定時間内の作図、設計趣旨の文書化、正確な面積計算の各方法を身につける。	2後	300	20	○			○	○			

(工業専門課程 建築工学科) 令和5年度																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
87		○		CAD演習 応用	CADによる建築設計についての基本操作を踏まえ、CADソフトの特徴を活かした効率的な作図能力を身につけ、より実務に近い詳細図などの作成を行う。	2後	60	4		○		○		○		
88		○		BIM演習 応用	意匠設計や建築生産に必要な3次元図面の作成技術を習得する。BIM設計の理解と操作技術の向上を図り、より実務に近いモデリングの作成を行う。	2後	60	4		○		○		○		
合計						88	科目	252 単位 (4050単位時間)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>学則に定める修業年限以上在学し、必修科目と選択科目から次の各号に定める単位を修得すること。</p> <p>卒業要件： (1) 1年課程 30単位 (2) 2年課程 62単位 (3) 3年課程 90単位</p>	1学年の学期区分	2期
<p>履修方法： ①授業科目は、必修科目、選択科目および自由科目とする。 ②必修科目の単位は必ず修得しなければならない。 ③授業科目は、定められた年次にそれぞれ履修しなければならない。 ④指定された履修年次に単位を修得できなかった授業科目は、原則として、次の学期または学年に再履修しなければならない。</p>	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。